

* 關係論: [さうありたい自己(△枠) ⇒ 手本(C・C') ⇒ 願望(D1) ⇒ 言葉(F: 願望的諸概念) ⇒ 型(E)にしたがつた行動 ⇒ 模倣(D2) ⇒ それに辻褷を合はせようとする(生甲斐・居心地の良さ・自己満足D3)]

『『批評家の手帖』P81.より』 以下文、「」内が恒存文。()内は吉野注。

* 「人はなにも立派な行爲や幸福な生活だけを真似たがりはしない。墮落すればしたで、不幸になればなつたで、それぞれの型(E)を真似よう(演戯)として、歴史(C時間的全體)のなかに、周囲(C'場)に物語や劇や小説(C'場)に、それ(型E)を探し求めるであらうし、自分が下した自己解釋(かう描かれたいと言ふ意識・願望=場面C'から生ずる心の動き=關係D1)を模倣(「型Eにしたがつた行動」・演戯D2、即ちボヴァリズム)し、それに辻褷を合はせようとする(生甲斐=居心地の良さ=自己満足D3)であらう」。…とは、以下の關係論圖を物語つてゐるのではなからうか。

